

高速道路点検診断資格・講習会講義・テキストに関する最新情報

1. 土木

No	テキスト分類	項目				内容 (質問等)	補足事項	備考
		編	章	節	ページ			
1	基本共通	1	2	1	P2	供用後30年経過した延長の割合がテキストでは約4割、講師は5割と言っていた。	基本共通テキスト概要では、26年末時点で約4割、講習(技術者倫理)では、約5割の現状(30年度末)として説明しています。時点が異なっていますので、次年度以降統一します。	掲載日 R1.9.19
2	基本共通	1、2			P2 P3-1	ページにより供用延長が異なっているので統一して欲しい	基本共通の概要P2では、平成28年度末時点の高速道路8276kmと表示し、道路構造物の基本P3-1では、約9400kmと表示しています。P3-1が平成29年度末の管理延長であるため統一した表記を心掛けます。	掲載日 R1.9.19
3	基本共通	1	1		P2	テキストでは、日平均利用交通量500万台であるが、講習用ビデオでは700万台と言っている。	基本共通テキスト 概要での利用交通量は、NEXCO3会社が管理する高速道路の日利用交通量500万台で、講習用ビデオの利用交通量には、NEXCO3会社が管理する一般有料道路を含めた日利用交通量700万台となっています。統一した表記を心掛けます。	掲載日 R1.9.19
4	基本共通	2	4	2	P4-11	テキストは1500m手前から回転灯を回すと記載しているがビデオでは300m～500m手前となっている。	テキストによる進入方法が標準です。テキストを平成30年度に見直ししていますが、講習用ビデオが更新できていませんでした。	掲載日 R1.9.19
5	基本共通	2	2		P2-39	詳細点検の講習ビデオで「かつ」「または」に誤りがあるように思う。	詳細点検で、第三者等に対する被害を未然に防止する観点から行う点検は、テキスト及び講習会スライドに示しているとおり、「近接目視かつ触診や打音」が正です。講習会の説明「または」が、言い間違いです。	掲載日 R1.9.19
6	専門Ⅰ・Ⅱ	4	1			国交省の舗装点検要領を採用すべきではないか	舗装については道路法施行令第35条の2第1項第二号の規定に基づいて行う点検であり、国の要領に記載された基本的な事項を踏まえ、独自に実施している道路管理者の既存の取り組みを妨げるものでないとしており、NEXCOで定めた点検内容としています。	掲載日 R1.9.19
7	専門Ⅰ・Ⅱ	4	6	3	P6-9	標識はAAの対象だが、落下防止ワイヤーの欠損がAA⇒A1に引き下げられるのか知りたい。	落下防止ワイヤーの欠損はAA判定となりません。テキストP6-9 表-1.5 判定の標準(交通管理施設【標識】)落下防止ワイヤーに示しています。ただし、第三被害被害に関わる範囲であれば、Eまたはeを付記します。(基本共通テキストP2-42)	掲載日 R1.9.19
8	専門Ⅰ・Ⅱ	4	6	4		遮音壁のカバープレートとあるが、下段パネルではないでしょうか	本文の該当箇所はおそらくP6-24下から7行目の「・・・最下段パネルにカバープレートが・・・」および図-4.12のタイトル「最下段パネルカバープレート切断状況」の部分かと思われます。ご指摘のとおり、昭和63年～平成16年頃までの標準設計図集には、この部分を「下段パネル」と記載しています。しかしながら、パネルという表現は遮音板のことと誤解されやすいことから、分かりやすく「最下段パネルカバープレート」という語句を使用しています。	掲載日 R1.9.19
9						健全度評価の説明で、機能と性能の切り分け(健全度評価の機能、性能、影響の使い方が統一されていない。)	基本共通第2章点検の基本P2-2「用語の定義」で、機能:目的又は要求に応じて構造物や部材が果たす役割。性能:目的又は要求に応えるために構造物や部材が発揮できる能力。と示しており、内容に応じた使い分けを行っておりますが、今後も統一して参ります。	掲載日 R1.9.19
10						「損傷」の意味をはき違えて使用されている。「変状」等に校正すべき	基本共通第2章点検の基本P2-2「用語の定義」で、損傷:地震や衝突等短時間に発生し、時間の経過によって進行しない変状。劣化:時間の経過によって進行する変状。変状:初期欠陥、損傷、劣化等の総称。と示しており、内容に応じた使い分けを行っておりますが、今後も統一して参ります。	掲載日 R1.9.19

高速道路点検診断資格の 講習会講義内容、また講習会テキストに関し補足するものです。

2. 施設

No	テキスト分類	項目				内容 (質問等)	補足事項	備考
		編	章	節	ページ			
1	施設		7	7-2-7	261 265	表-7.28 テキストは「B」まで、講習では解説も資料も「B・C」になっている 同様に、表-7.33 テキストと講習会資料は「B」、講習の解説では「B・C」になっている	講習会資料、解説に誤りがありました。平成28年度にテキストを見直ししていますが、講習会資料・解説が更新できていませんでした。	掲載日 R1.10.10
2	施設		7	7-3	279	(写真-7.40 ボルト・ナットの緩み・脱落の事例 について)ボルト・ナットを追加した場合の判定もAAか	テキスト12P記載のとおり、ボルトが脱落している時点で「AA」判定となり、応急措置としてボルト・ナットを追加しても、監督員に報告、判定会議、記録は実施してください。応急措置後の判定は判定会議で確認する。 (処置済みなので、再判定後は「AA」判定ではなくなるが、ナットが緩み脱落した記録を行うことで、他の緩みが無いかを確認するための点検計画の見直しなどが必要となります)	掲載日 R1.10.10
3	施設		9		377~	(第9章 その他 について)不要なのか、必要なかよくわからない	過去の施設設備の変遷(例: JFの仕様・構造・吐出能力 等)を知ることが、設備の経過年数を予想する上でも参考となります。また、その設備がたどった改修の履歴を知ることが損傷しやすい部分・部品を知ることができる場合もあります。このようなことから、過去の変遷を知ることが点検自体にも有用であり、かつ点検計画・補修計画の見直し・策定にも必要であると言えます。	掲載日 R1.10.10

高速道路点検診断資格の 講習会講義内容、また講習会テキストに関し補足するものです。